

2024年度グローバル・サービスマーケティング B 実施報告(ホームページ掲載)

科目名	グローバル・サービスマーケティング B 教員名 小関 隆志
実習先	フィリピン共和国 セブ島
実習期間	2025年2月22日(土)～ 3月7日(金)
テーマ	フィリピンのスラム地区で貧困と向き合う

目的(実習のねらい):

グローバル・サービスマーケティング B は、フィリピン・セブ島においてボランティア活動を行う海外短期ボランティア実習です。実習中は現地の NGO の活動に加わり、貧困問題・教育・福祉・国際開発などアジア地域が抱える社会課題について取り組んでいただきます。

海上スラムなどで暮らす家族や孤児院で暮らす子どもたちとの交流を通して、アジアの現状を知り、彼らが抱える課題について考え、今後必要な支援や取り組みについて参加者どうしで話し合うことが目的です。



セブ市中心部にあるカランバ(Calamba)墓地にて(2025.2.24)。墓地内で、多くの家族が肩を寄せ合って暮らしている。子どもたちは元気いっぱい遊ぶ。

実習報告:

フィリピン共和国中部にあるセブ島とマクタン島で活動を行いました。

セブ島・マクタン島はリゾート地として日本人の間でも人気が高く、美しい海岸にはプライベートビーチを持つ高級ホテルが並んでいます。また、近年は英語を学びたい人にとって手頃な価格での留学先としても知名度が高まり、若者から高齢者まで、多くの日本人が訪れる島でもあります。日本から直行便が飛んでいることもあって、観光旅行に行ったことがある人も多いのではないのでしょうか。

フィリピンは国民の平均年齢が26歳（2023年時点；日本は48歳）と相当に若く、活気にあふれています。経済成長が著しい新興国で、市街地には巨大なショッピングセンターが立ち並び、富裕層のコンドミニウム（高級マンション）もあって、豊かな消費社会を実感させます。

他方、社会保障制度が未整備のため貧富の格差が大きく、経済成長に伴って格差が拡大しています。特に子どもの貧困率は26.4%（2021年時点；日本は11.5%）と深刻です。豊かさの陰に取り残されてしまっている人々は、どんな暮らしをしているのか。私たちにできることは何か。少数部族が暮らすスラム地区のコミュニティを訪れました。

そのコミュニティは、マクタン島の海辺に住民が粗末な家を建てて住んでいることから、私たちは「海上スラム(sea slum)」と呼んでいます。2年前から同じコミュニティで活動しているので、住民の皆さんは明治大学のことを覚えていてくれました！

コミュニティの中心となっている教会の建物の1階部分の床が相当に傷んでいて、あちこち穴が開いている状態でした。そこで、みんなで床に板材を打ち付け、ついでにペインティングしました。そのほか、ハヤシライス进行調理してふるまったり、子どもたちとダンス、けん玉、積み木、風船などでいっしょに遊んだりして仲良くなりました。

海上スラムでの活動の様子



教会に連日通い、バディや住民と一緒に、床板張りとペインティングの作業に汗を流しました。



実習報告(続き):私たちは海上スラムの他にも以下のような活動を行いました。

(1) 墓地スラム (2月24日)

セブ市中心部にあるカランバ(Calamba)墓地の中に貧困の人々が集まって住み、コミュニティを形成しています。私たちはそれを「墓地スラム」と呼んでいます。

昨年まで主に訪問していた別の墓地スラム(カレッタ墓地)は、その地区一帯の再開発のために一掃されてしまい、その住民は散り散りになってしまいました。

学生は、墓地スラムに住む大勢の子どもたちと「だるまさんが転んだ」などの遊びを通して交流し、また墓地スラム内の「住宅」を訪問して、住民の方に生活の状況などについてお話を聞きました。



広場で、子どもたちと交流



墓地に暮らす住民にお話を聞く

(2) マザーテレサ修道院 (2月25日)

セブ市中心部の貧困地区にあるこの修道院は、親が養育できない未就学児を引き取って養育しています。学生は子どもの相手をして、食事を与える体験をさせてもらいました。

また修道院内には、近隣に住む高齢の路上生活者が集まる部屋があり、修道院は毎日、彼らに食事を提供しています。学生は高齢者と話をしたり、昼食を給仕したりしました。

(3) 小学校訪問 (2月26日)

セブ市内にあるテジェロ小学校(Tejero Elementary School)を訪問し、小学生と交流しました。この時は、神戸大学生のグループと一緒にの訪問でした。

小学生は得意のウクレレで演奏を披露してくれました。とても上手でした！



(4) ごみ山スラム(Inayawan Dumpsite) (3月4日)

セブ市内から出された一般ごみは、焼却が禁じられているため露天のごみ集積場に山積みされています。その「ごみ山」からプラスチックや金属などを拾い集めて回収業者に売り、生計を立てている人々(スカベンジャー)が、ごみ山の隣に住んでいます。

私たちはそこを訪問し、住民に食品を配るとともに、生活の様子を見て回りました。



Jacob Maentz, "Providing Educational Opportunities to Children" <https://jacobimages.com/2012/08>

実習報告(続き):テーマごとに3つのグループに分かれ、3日間にわたり、バディの案内で様々な場所に訪問調査を試みました。

(1) フードチーム

当初は食品工場の見学を考えていましたが、セブ島の食文化を探究することにしました。1日目はカホイカフェ(Kahoy Café)というフィリピン伝統料理のお店で様々な食材に挑戦。2日目はレチョン(Lethon)というところで、豚の丸焼きを見学し、試食しました。3日目は何と豚の脳みそを食べました。いずれもたいへん美味しかったです。



(2) 歴史と文化チーム

セブ国立博物館、サンペドロ要塞、サントニーニョ教会、マゼランクロス、テンプル・オブ・レア(Temple of Leah)など、セブ島の歴史を語るうえで欠かせない著名な場所を訪問し、はるか昔に思いをはせました。



写真左：サンペドロ要塞

写真中：サントニーニョ教会

写真上：テンプル・オブ・レア

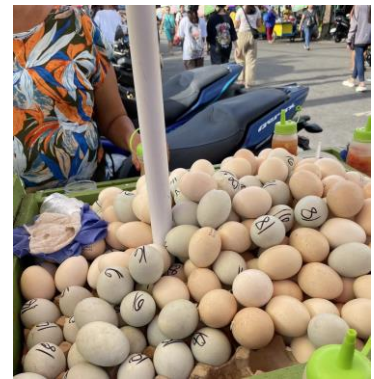
(3) 観光チーム

セブ・サファリやセブ・オーシャンパーク(水族館)、カルボン・マーケットなど、歴史・伝統とは一味違った観光地を訪問しました。日本の代表的なサファリや水族館と面積、料金、動物の種類などを比べると意外にも、決して遜色のないもので、セブ島の観光面の魅力を多面的に理解できました。



写真左・中：セブ・サファリ内のフラミンゴとシマウマ

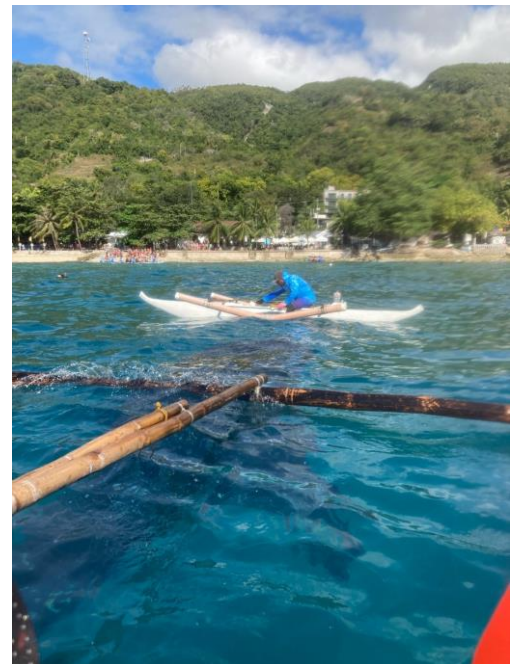
写真右：カルボン・マーケットにて、バロット卵を売っている露店



実習報告(続き):ジンベエザメツアー

フリーデイ(休日)が2日間あり、そのうち1日は9名中7名が「ジンベエザメツアー」に参加しました。セブ島南端にあるオスロブ(Oslob)で餌付けされているジンベエザメと一緒に泳ぐアトラクションで、海水の透明度が高く砂浜が美しいことから、セブ島観光で特に人気を誇っています。

ボートで海を渡り、対岸にあるスミロン島にも行きました。エメラルドグリーンの海を満喫し、日々の活動の疲れを癒すことができました。



成果:

前年度に引き続き、海上スラムでの支援・交流を中心に活動を進めたことで、そのコミュニティの住民と継続的な信頼関係を築くことができました。

一つの小さな島の中でも、経済的な豊かさを享受している地区や人々と、豊かさから取り残されて極端な貧しさにあえいでいる地区や人々が混在している様子を、2週間の滞在のなかで実感してきました。日本ではあまり接することのない絶対的貧困とはどういうものか。貧困の中で人々はどのように暮らし、何に希望を見出しているのか。そして、私たちにできることは何かを考える機会となりました。

活動拠点では教会の床の補修や料理、子どもたちとの交流をしましたが、単に手足を動かすだけではなく、スラムの現状や背景について説明を受け、住民に暮らしぶりを尋ねるなど、背後にある社会課題を深く知ることに努めました。

今回は学生が自らの関心に沿って、「食」「歴史・文化」「観光」の各テーマでグループごとに訪問先を選び、3日間にわたってバディと話し合いながら様々な場所を訪れました。学生の主体性を原動力として、歴史や伝統文化など、セブ島・マクタン島の魅力を多面的に理解できたことが、今回の大きな特徴といえます。

学生の実習を企画運営した CEC ジャパンネットワーク <https://www.cecj.net/>、現地の受け入れ団体の NGO、Strategic Livelihood Projects Cebu (SLPC) <https://go-cebu.com/>とそのコーディネーター、バディには大変お世話になりました。

専任教授 小関隆志

明治大学 経営学部 グローバル・サービスラーニング活動紹介ページ

<https://www.meiji.ac.jp/keiei/features/gsl.html>